

1 単元名 「妙蓮寺タウンじょうほう その3 ～広めよう！ 妙蓮寺じまんの一品～」

国語科 教材名 「しりょうからわかる小学生のこと」（光村図書）

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は3年生として初めて「総合的な学習の時間」の学習に取り組んでいる。

まず、社会科の始めの単元である「街調査」を通して、住み慣れている身近な学区の地形や公共施設、交通の様子を知るとともに、「妙蓮寺の街」やそこで働く人と出会った。さらに続けて身近なスーパーマーケットの見学を通して「売る仕事」や、地元の商店や、工場の見学を通して商品を「作る仕事」について興味関心を広げ、その学習を進めてきている。これらの学習で、大量仕入れ、大量販売のスーパーマーケットを利用する家庭が多いという事実を知るとともに、近隣の商店街では、その店独自の、そこでしか買えない商品があるという気づきが生まれた。そこで、それぞれが興味をもった「妙蓮寺の街のその店でしか買えない一品」について調べ、紹介する活動に取り組むこととなった。また、「自分たちにも妙蓮寺らしい一品を開発することはできないだろうか。」という願いも生まれた。地元の商店の協力を得て、児童なりの商品の開発にも取り組んでいる。

国語科の「話すこと・聞くこと」に関する実態として横浜市学力・学習状況調査においては図1のような結果である。「大事なことを落とさないように聞くこと」に課題が見られている。そこで5月「質問キャッチボールをしよう」では、社会科や行事などで興味をもったことや話したいことを小グループで友達に話したり、話の中心に沿ってさらに引き出す質問をしたりする学習をした。それ以降、継続して朝のスピーチタイムを重ねてきている。

伝え合うことの学習としては、6月に「妙蓮寺タウンじょうほう1」として社会科の街調査の結果をまとめ、互いに説明し合う活動をしている。取材した内容から伝えたいことを選択し、学区地図や写真を見せながら説明したり、質問しあったりすることができた。

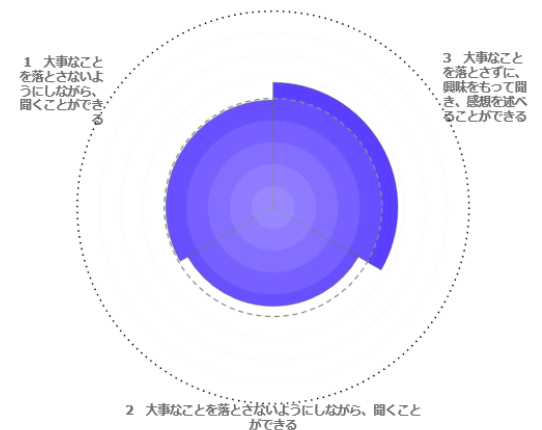


図1 平成26年度横浜市学習状況調査結果
港北小学校2年生 国語科「話すこと・聞くこと」

(2) 単元に関わる教師の意図

本単元は児童が住んでいる街のことを知り、その良さに気づき、さらに好きになることをねらいとしている。

妙蓮寺の駅の西側周辺には、「妙蓮寺ニコニコ商店街」「仲手原商店街」「池之端商店街」などが隣接し、食料品や生活用品を取り扱う商店や、飲食店が立ち並んでいる。商店街を通学路として使っている児童もおり、駅周辺に住む児童にとっては非常に身近である。しかし駅の東側に住む児童にとっては、直接買い物をした経験が少ない場所でもある。これらの経験の差を小さくするためにも、学習の時間の中で何度も訪問し、直接取材、調査、体験活動を重ねていけるように仕組んでいきたい。この商店街を中心に、妙蓮寺の街で働く人に出会わせ、その店それぞれの工夫や努力に気づき、店の人と触れ合うことを通して妙蓮寺の街に親しみ、愛着をもてるようにしたい。

『横浜の時間』として、総合的な学習の活動に国語科の単元を関連させていく。国語科の単元を貫く言語活動を総合的な学習の時間の活動に落とし込み、主体的に取り組むための強い目的意識をもたせたい。さらに国語の指導事項である身に付けたい力を活用しながら定着させていきたい。国語科「しりょうからわかる小学生のこと」は、写真と文章を使って、自分が伝えたいことを効果的に説明したり、紹介したりすることをねらいとする。活動やその結果を示す資料からわかったことを、相手（保護者や地域の人）に分かりやすく説明する活動を行う。自分の伝えたい事柄が資料や活動場面のどこを根拠としているのかを筋道を立てて話すこととし、そのための構成をとらえさせる。また、話し方として「相手や目的に応じた丁寧でわかりやすい話し方」「資料の見せ方」を工夫させる。そこで、「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開き、保護者や地域の方に向けて自分なりの見方・考え方を説明するという言語活動を設定し、切実感のある問題解決学習にしていきたい。

3 研究主題との関わり

平成27年度横浜市情報・視聴覚教育研究会 研究主題 「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」
--

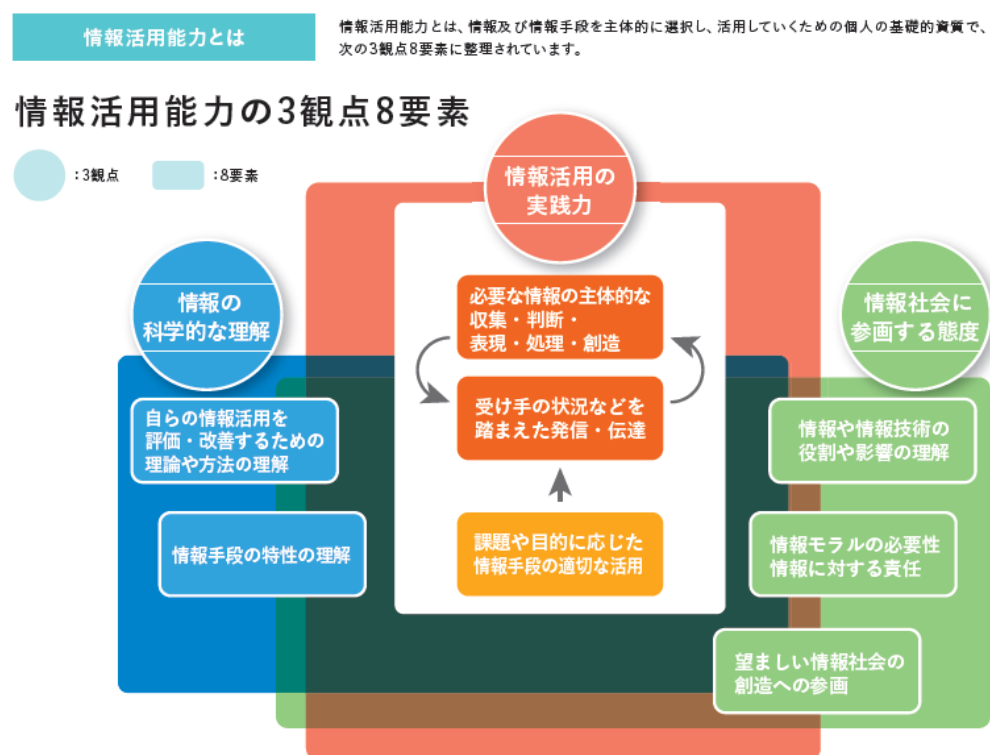
(1) ICTの活用

機器・・・タブレット端末（Android 4.4）16台 電子黒板 ワイヤレスディスプレイアダプタ（画面転送）
教室内サーバ用PC 無線LANアクセスポイント ポケットwifi

今年度、横浜市の先行導入として学校に40台のタブレット端末が導入された。本学級では主に4人で1台の活用を重ねてきている。タブレット端末を使って写真を撮影したり、説明の際に写真を提示したりして、様々な教科や学級活動の場面で利用している。下半期になってポケットwifiの導入と、教室内無線LANの構築がなされ、活用の幅が広がっている。

本単元では、4人単位のグループに2台を用意する。資料提示用・撮影用で活用、場合によっては2台で提示して比較するという活用を想定している。

(3) 主題に迫る手立てと授業デザイン



(情報活用能力育成のために 平成27年3月 文部科学省 より抜粋)

<情報活用の実践力>

情報活用能力については、適切な「情報の収集・選択・伝達」について理解を深めさせたい。

これまでの学習のなかで出会ってきた大人や保護者へのインタビュー、提供されたり自分で写したりした画像、WEB上の情報、さらに図書資料などから、自らの課題に沿った情報を収集し、選択して伝達できる力をつけたい。

そのために、以下の点における指導に配慮する。

- ① 司書教諭と連携した図書活用
- ② 適切なインターネット検索の仕方の理解
- ③ 情報の出典元の確認と引用の仕方
- ④ 著作権・肖像権についての配慮
- ⑤ インタビュー、質問のための手紙や電話や電子メールなどのマナー
- ⑥ 適切な個人情報の扱い

・情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造

収集にあたっては、地域の図書資料、地図、店のHP画面、包み紙、製品の成分表示などの読み取りや、現地での撮影、店の方へのインタビュー活動などの取材を行う。

判断・表現・処理・創造については、これまでの学習でポートフォリオやタブレット端末のデータとして蓄積されたものの中から、説明の際に効果的だと思われる資料を選んだり、キャプションを入れるなどの加工をしたり、表やグラフの作成をしたりする。また、子どもが合意形成していく過程においては、十分なコミュニ

ケーションを重ねる中で判断していけるようにする。

- ・受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

説明の相手意識を保護者と地域の方、店主とする。「妙蓮寺にはこんな特徴のある魅力的な商品があるのか」「その商品には作り手のこんなこだわりがあるのか」「そんなに詳しく調べ、商品に愛着をもったのか」といった気づきや感想を与えることを目的とする。内容と共に、本單元では、「資料を示しながらの説明の仕方」を考え、身につけさせる。

- ・課題や目的に応じた情報手段の適切な活用

取材の際には、「取材相手の許可をとる」ことを徹底させ、著作権や肖像権、個人情報の取り扱いへの配慮など情報モラルの学習を進める。

<情報の科学的な理解><情報社会に参画する態度>

発達段階に応じて、活動の中で意識できるように支援していく。

<協働学習と思考の可視化>

單元においては「この学習の目的は何か」「妙蓮寺じまんの一品の定義は何か」「商品の何を伝えたいのか」「他の商品との違いは何か」「どのようなフェアを開くのか」などにおいて十分に話し合わせたい。根拠をもって自分の考えを言いたくなるようにするため、共通の体験活動を多くもたせていく。その上で「写真や資料から読み取れることを説明に活かすこと」「伝えたいことを効果的に表す資料を選ぶこと」を何度も往復しながら、「より効果的に伝える表現」について考えさせたい。

学級全体での合意形成を大切にしながら、グループでの協働的な学習を進めていく。同じテーマで探究しているグループでは情報を分類整理・選択する場面で細部にわたっての検討をしやすくなる。最適な内容、構成、表現などについて、相手意識・目的意識、情報収集した事実を根拠に話し合うには、児童が十分に互いの思考を可視化しながら学習を進めていく必要があると考える。そのために、ワークシート、思考の流れを構造化したシート、ホワイトボード、付箋紙などのツールを活用し、話し合いの過程が残せるようにする。これらは教師にとっても各グループの状況を見取る一助となり、課題解決に向けての適切な支援につながるはずである。また、活動の振り返りを重視することにより、進捗状況を共有し、次の活動にむけての方向を明確にする。

このように ICT を活用して思考を可視化しながら協働的な学習を進めることにより、さらに高次の情報活用能力を高めていけると考える。

<言語活動の特徴>

本単元の言語活動として「資料を示しながら商品の良さを説明する」を位置付けた。

自分の課題を解決するために目的をもって取材したことやそれを裏付ける資料から得た情報整理し説明する言語活動は、他教科・領域等での学習でも有効に活かしていける活動である。

「資料を示しながら説明すること」の特徴として、主に以下のようなことが挙げられる。

- ①自分が調べたことから分かったことや、考えたことを話す。
- ②発表会の聞き手や目的を具体的にもち、それに合わせて説明する。
- ③グラフや表、写真、絵などの資料を読み取り、それを見せながら効果的に伝える工夫をする。
- ④設定した時間を意識した構成を考える。
- ⑤相手の反応を見ながら言葉の抑揚や間の取り方、資料の指示し方を工夫して話す。

「資料を示しながら説明する」という言語活動の特徴が、目標の実現にむけて有効であると考ええる点は、以下の3点である。

一点目は、相手意識である保護者や地域の方にとって「妙蓮寺にはこんな特徴のある魅力的な商品があるのか」「その商品には作り手のこんなこだわりがあるのか」といった気づきを与えることができるかを意識しながら取材や調査を進め、効果的に説明するための工夫ができる点である。

二点目は、取材したり、調査したりする中で集めた情報や、写真や動画をポートフォリオやタブレット端末などに蓄積していける点である。年度当初から繰り返し調査してきた街の情報を何度も取り出して活用したり、友達と共有したりすることができる。

三点目は、グループで調査した情報を発表する際、原稿を読み合い、話し方の修正を重ねるなかで、質問や感想を述べやすくなる点である。細部にわたって吟味したり、意見したりすることから、ねらいに沿った思考

を深めることができる。

以上の手立てから、「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」を実現できると考える。

4 単元の概要

(1) 単元の目標

妙蓮寺の街にしかない、妙蓮寺の街で作っているものを探し出し「妙蓮寺じまんの一品」として紹介することを通して、それを作って売っている人の思いや願いを受け止めながら、共に行動する力と、相手意識をもって伝える力を伸ばすとともに、地域の商店街のよさを知り、自分たちにできることを考え実践することができる。

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

ア 妙蓮寺について広めていきたいという問題状況の中から課題を発見し、設定する（課題設定）

イ 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くために適切な手段や内容を選択し、情報を収集する（情報の収集）

ウ 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くために収集した情報を整理し、比較したり、関連付けたりして課題の解決に向けて考える（情報の選択）

エ 保護者や地域の方に「妙蓮寺じまんの一品」のよさを広めるという相手や目的に応じて、その根拠とできる分かりやすい資料を選択し、伝える（情報の伝達）

【自分自身に関すること】

オ 探究的な学習活動の楽しさを味わうとともに、妙蓮寺の街に愛着をもつ

【他者や社会とのかかわりに関すること】

カ 友達と情報交換したり話し合ったりすること、専門家からの助言などを通して、より目的にあった決定を目指していく

キ 取材活動や体験活動を通して「妙蓮寺じまんの一品」のよさや働く人のこだわりを知り、妙蓮寺の街に愛着をもつ

(3) 単元で学ぶ内容

ア 妙蓮寺の商店街で製造・販売されている商品の良さと、そこに込められた店主のこだわり

＜紹介する商店・会社・主な商品＞

① 肉のキタムラ（食肉販売 加工肉製造・販売）・・・山形牛コンビーフ

② café 茶寿（洋菓子製菓・販売・喫茶）・・・おからクッキー(プレーン)

3年4組開発の新商品 おからクッキー(「横浜醤油」味)

③ 八州屋（おでん種製造・販売）・・・さつまあげ

④ 横浜醤油（醤油製造・販売）・・・丸大豆醤油（東海道ラベル）

イ 妙蓮寺の街の位置や歴史、環境などの特徴

国語科で重点化した指導事項「A 話すこと 聞くこと」

ア 関心のあることから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること

イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと

ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)イ (ク)

指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

5 単元の評価規準

評価の 観点	学習方法		自分自身 (自己理解)	他者や社会とのかかわり (他者理解)
	(課題設定)	(思考・分析)		
単 元 の 評 価 規 準	①妙蓮寺の街について関心を持ち、街について広めていくために課題を設定している。 【(2)ーア】	①イメージマップから広げた「妙蓮寺のまちの特徴」をお互いに関連付け街のイメージを広げている。 【(2)ーイ】 【(3)ーア・イ】	①妙蓮寺の店舗やそこで製造・販売されている商品について調査したり、体験したりしたことを振り返ったり、その内容に興味をもったりしている。 【(2)ーウ・オ】 【(3)ーア】	①妙蓮寺で製造し、販売されている商品について調査し、「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くことを通して生じた課題を解決するために、他の児童やお店の方々などの意見を取り入れている。 【(2)ーイ・ウ・カ】 【(3)ーア】
	②「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くために、フェア開催の目的を理解し、学習計画を立てている。 【(2)ーイ】 【(3)ーア】	②「妙蓮寺じまんの一品」認定にふさわしい商品なのかを考えるために、工場で生産された同様の商品と成分や生産過程を比較している。 【(2)ーイ・ウ】	②「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くことを通して、自分のがんばりに気付いたり、開催への意欲をもったりすることができる。 【(2)ーエ・オ】 【(3)ーア】	②「3年4組オリジナル妙蓮寺スイーツ」「妙蓮寺じまんの一品認定マーク」を開発するために、専門家のアドバイスを参考にしている。 【(2)ーイ・ウ・カ】 【(3)ーイ】
		③取材して得た情報や、学級で検討した結果から「妙蓮寺じまんの一品」に認定する商品を根拠をもって決定し、商品のよさを、根拠をもって説明している。 【(2)ーウ】 【(3)ーア】		③「妙蓮寺じまんの一品フェア」で、保護者や地域の方に向けて商品の良さや店主の思いを伝えている。 【(2)ーエ・キ】 【(3)ーア】
		④「3年4組オリジナル妙蓮寺スイーツ」「3年4組妙蓮寺じまんの一品認定マーク」を開発するために地域の特徴を盛り込むための根拠をもっている。 【(3)ーア・イ】		

<国語科の評価規準>

<国語への関心・意欲・態度>

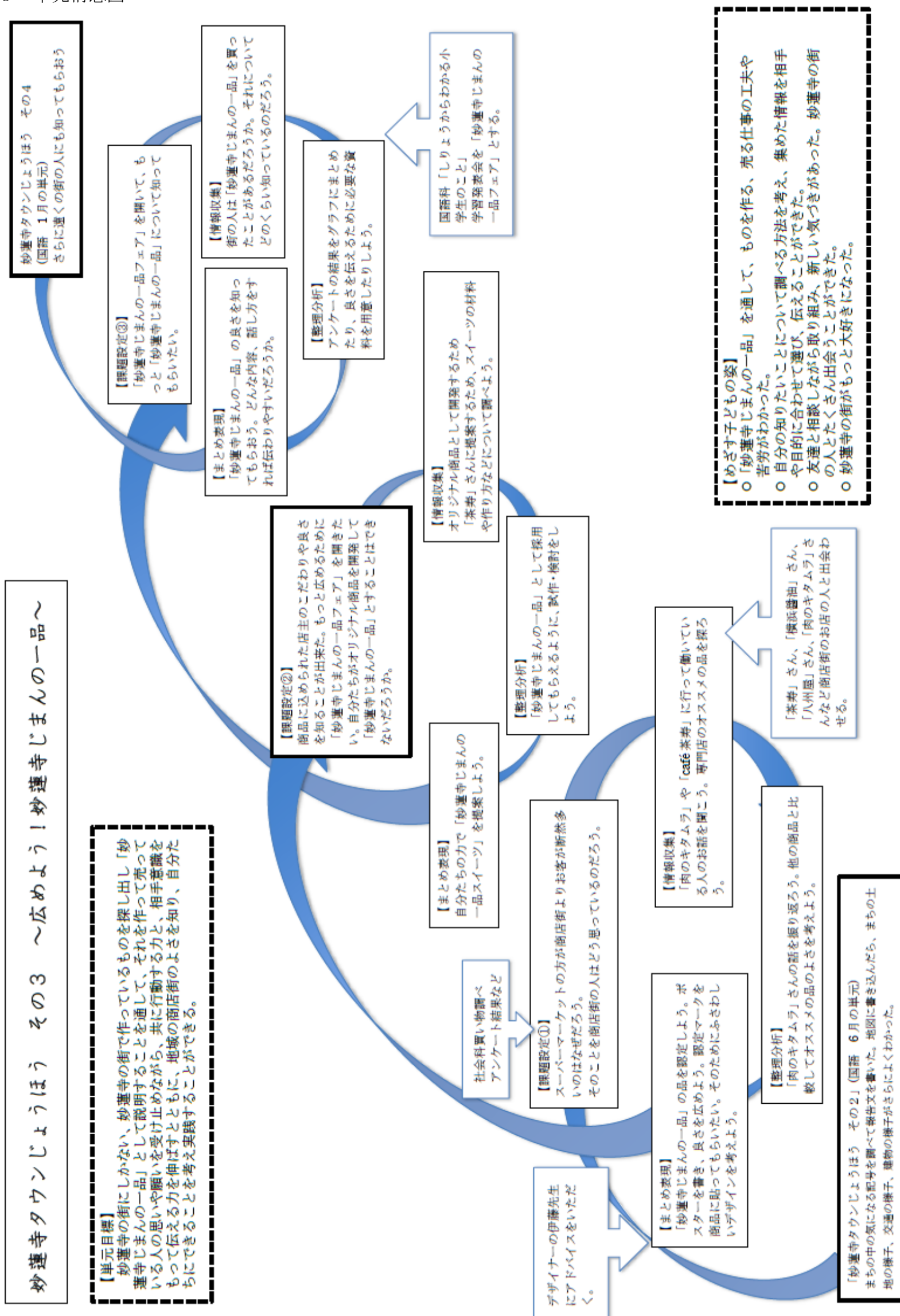
- ① 資料から分かった「妙蓮寺じまんの一品」のよさを説明したいという思いを膨らませ、進んで話し手になって説明しようとしている。

<話す力>

- ② 「妙蓮寺じまんの一品」のよさを示す資料から情報を選んで分析し、分かったことや考えたことを挙げている。(1) ア
- ③ 「妙蓮寺じまんの一品」のよさについて、選んだ資料を根拠に分かったことや考えたことを、話す事柄の順書を考え筋道を立てて話している。(1) イ
- ④ 相手を見て、大事な言葉や文を強調したり、間の取り方に注意したりして話している。(1) ウ

<言葉についての知識・理解・技能>

- ⑤ 指示語や接続語の使い方に注意して話している。 伝国 (1) イ (ク)



1 チャレンジ(総合)ってどんな時間？(総合 2)

- いろいろな教科で学んだことを生かして、教科書に載っていない自分たちだけの学習にしよう。
- 「妙蓮寺タウンじょうほう 1」(社会)「妙蓮寺タウンじょうほう 2」(国語)に続けて、まちの役に立つことに取り組めるといいな。もう一度、妙蓮寺の駅のまわりや商店街を調査しよう。

2 にここ商店街に調査に行こう(総合 2)

- 夏休み買い物調べでは、スーパーマーケットに買い物に行く人がほとんどだった。商店街の人はどう思っているのかな。
- 肉のキタムラさんは「うちは『本物』を扱っている。」とおっしゃった。それぞれの店の「ここでしか買えないもの」「ここで作って売っているもの」を、「妙蓮寺じまんの一品」として認定しよう。
- 妙蓮寺らしいおみやげになるような商品を自分たちで作れないかな。

「妙蓮寺タウンじょうほう その3」 ～広めよう！ 妙蓮寺じまんの一品～

3 「妙蓮寺じまんの一品」を見つけよう (総合 2 2 国語 5 社会 4)

- お店のおすすめは何だろう。 ⑫
なぜおすすめなのだろう。
原材料・作り方・商品の名前・パッケージ・注意書きなどにひみつがあるかな。
作って売っている人のこだわりは何かな。
「森永工場」に見学に行き、「茶寿」との違いを考えよう。

【社会】「工場で働く人と仕事」 ④

- 「妙蓮寺じまんの一品」を開発しよう ⑩
「妙蓮寺じまんの一品」にふさわしいお店のコラボレーション商品は作れないかな。
試作して、お店の人に提案しよう。
パッケージやチラシも考えよう。

- 調べ方を身に付けよう。

【国語】「本を使って調べよう」 ③

- ・本で調べる方法

【国語】「つたえよう楽しい学校生活」 ②

- ・インタビューの仕方

- 「妙蓮寺じまんの一品」を知ってもらい、手に取ってもらうためにはどんな方法があるだろうか。

4 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開こう(総合 1 1 国語 1 2 道徳 1)

- 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を知ってもらおう
チラシやポスターを作ろう
学校内に、ポスターを貼ってもらおう
妙蓮寺駅の掲示板にポスターを貼ってもらおう。
「妙蓮寺じまんの一品フェア」で一番伝えたいことを書こう。
- 「妙蓮寺じまんの一品」認定マークを開発しよう。
菊名池のダイダラボッチ伝説を詳しく調べよう
デザイナーの伊藤先生にアドバイスをもらおう。

【道徳】私のまちのすてきな場所 ①

- 学習発表会 12月17日(木)の計画を立てよう。
お世話になった方をお招きしよう。
説明したい事柄を出し合って、発表の計画を立てよう。

【国語】「つたえよう、楽しい学校生活」 ⑤

- ・グループでの話合いの仕方

- 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開こう。

【国語】「しりょうから分かる、小学生のこと」 ⑦＋【総合】 ③

- ・発表の仕方

- 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を振り返ろう。さらに妙蓮寺の魅力を広めるためにできることを考えよう。

5 活動を振り返り、「妙蓮寺タウンじょうほう 4」(国語 1 月の単元)へつなげよう (総合 2)

- これまでの取り組みをふりかえろう。
- もっと妙蓮寺の魅力を広げていきたい。まちの外の人にも伝えていくにはどんな手段があるだろうか。何を盛り込むべきだろうか。

- 「妙蓮寺じまんの一品」を通して、物を作る、売る仕事の工夫や苦労がわかった。
自分の知りたいことについて調べる方法を考え、集めた情報を相手や目的に合わせて選んで、伝えることが出来た。
友達と相談しながら取り組んで新しい気づきがあった。妙蓮寺のまちの人とたくさんで出会うことが出来た。
妙蓮寺のまちが大好きになった。
さらに広めていきたい。

6 本単元に関わる教科等の内容

教科等名	学習内容	時間数
国語	・記録や報告の文章，図鑑や事典などを読んで利用する。 ・関心のあることなどから話題を決め，必要な事柄について調べ，要点をメモする。 ・相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道を立て，丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。 ・相手を見たり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意したりして話す。 ・話の中心に気を付けて聞き，質問をしたり感想を述べたりする。 ・互いの考えの共通点や相違点を考え，司会や提案などの役割を果たしながら，進行に沿って話し合う。	17
社会	・地域の人々の生産や販売について，見学したり調査したりして調べ，それらの仕事に携わっている人々の工夫を考える。	4
道徳	・郷土の文化を大切にし，郷土を愛する心をもつ。	1

7 指導と評価の計画

小単元 (時数)	主な活動	評価規準及び評価方法	
1 チャレンジ (総合)ってどんな 時間？ (総合2)	○いろいろな教科で学んだことを生かして，教科書に載っていない自分たちだけの学習にしよう。 ○まちの役に立つことに取り組めるといいな。 ○もう一度、妙蓮寺の駅のまわりや商店街を調査しよう。	課題① 妙蓮寺の街について関心をもち、街について広めていくために課題を設定している。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ウェビング図
2 にこここ商店街に調査に行こう (総合2)	○夏休み買い物調べでは、スーパーマーケットに買い物に行く人がほとんどだった。商店街の人はどう思っているのかな。 ○肉のキタムラさんは「うちは『本物』を扱っている。」とおっしゃった。それぞれの店の「ここでしか買えないもの」「ここで作って売っているもの」を、「妙蓮寺じまんの一品」として認定しよう。 ○妙蓮寺らしいおみやげになるような商品を自分たちで作れないかな。	課題② 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くために、フェア開催の目的を理解し、行動しようとしている。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ウェビング図
3 「妙蓮寺じまんの一品」を見つけよう (総合22) (国語5)	○お店のおすすめは何だろう。なぜおすすめなのだろう。原材料・作り方・商品の名前・パッケージ・注意書きなどにひみつがあるかな。 - 作って売っている人のこだわりは何かな。 「妙蓮寺じまんの一品」に認定する商品を決定しよう。 「森永工場」に見学に行き、「茶寿」との違いを考えよう。	思・分② 「妙蓮寺じまんの一品」に認定にふさわしい商品なのかを考えるために、工場で生産された同様の商品と成分や生産過程を比較している。 他・理① 妙蓮寺で製造し、販売されている商品について調査し、「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くことを通して生じた課題を解決するために、他の児童やお店の方々などの意見を取り入れている。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ポートフォリオ
	○妙蓮寺じまんの一品」を開発しよう。 「妙蓮寺じまんの一品」にふさわしい、お店のコラボレーション商品は作れないかな。 - 試作して、お店の人に提案しよう。 - パッケージやチラシも考えよう。 ○調べ方を身に付けよう。 ・本で調べる方法 ・インタビューの仕方	思・分④ 「3年4組オリジナル妙蓮寺スイーツ」「3年4組妙蓮寺じまんの一品認定マーク」を開発するために地域の特徴を盛り込むための根拠をもっている。 他・理② 「3年4組オリジナル妙蓮寺スイーツ」を開発するために、専門家のアドバイスを参考にしている。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ホワイトボード

5「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開こう (総合8) (道徳1)	○「妙蓮寺タウンじょうほう その1」の街調査で見つけた「妙蓮寺のまちのすてきな所」を話し合おう。 ○「妙蓮寺じまんの一品フェア」を知ってもらおう チラシやポスターを作ろう 学校内に、ポスターを貼ってもらおう 妙蓮寺駅の掲示板にポスターを貼ってもらおう。 「妙蓮寺じまんの一品フェア」で一番伝えたいことを書こう。 ○「妙蓮寺じまんの一品」認定マークを開発しよう。 菊名池のダイダラボッチ伝説を詳しく調べよう デザイナーの伊藤先生にアドバイスをもらおう。	思・分① 妙蓮寺で製造し、販売されている商品について調査し、「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くことを通して生じた課題を解決するために、他の児童やお店の方々などの意見を取り入れている。 他・理② 「3年4組妙蓮寺じまんの一品認定マーク」を開発するために、専門家のアドバイスを参考にしている。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ホワイトボード ・認定マーク案 ・学習履歴図
(国語5) (国語7) (総合3) 本時 7／10	○学習発表会 12月17日(木)の計画を立てよう。 お世話になった方をお招きしよう。 説明したい事柄を出し合って、発表の計画を立てよう。 ○発表の仕方を工夫しよう。 おうちの人や地域の人が「妙蓮寺にはこんな特徴のあるよい商品があるのか」「その商品には作り手のこんなこだわりがあるのか」「そんなにくわしく調べ、商品を好きになったのか」と気づいて、「買ってみたい。」と言うような発表にしよう。	思・分③ 取材して得た情報や、学級で検討した結果から「妙蓮寺じまんの一品」に認定する商品のよさを、根拠をもって説明している。 他・理③ 「妙蓮寺じまんの一品フェア」で、保護者や地域の方に向けて商品の良さや店主の思いを伝えている。	・発言・観察 ・振り返りカード ・学習履歴図 ・発表メモ ・発表練習動画 ・発表の様子
6 活動を振り返り、「妙蓮寺タウンじょうほう 4」(国語1月の単元)へつなげよう (総合2)	○これまでの取り組みをふりかえろう。 もっと妙蓮寺の魅力を広げていきたい。 ○まちの外の人にも伝えていくには何を盛り込むべきだろうか。どんな手段があるだろうか。	自理① 妙蓮寺の店舗やそこで製造・販売されている商品について調査したり、体験したりしたことを振り返ったり、その内容に興味をもったりしている。 自理② 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くことを通して、自分のがんばりに気付いたり、開催への意欲をもったりすることができる。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ホワイトボード ・学習履歴図

8 本時の活動展開

(1) 本時目標

「妙蓮寺じまんの一品フェア」で商品の良さや店主のこだわりについてわかりやすく伝えるための準備することを通して、保護者や地域の方に自分が説明した商品を購入してみたいと思ってもらうための根拠をもって内容を決定し、妙蓮寺の商店街のよさを広めようとする。

(2) 本時の展開

学習活動と内容	評価規準<評価方法>と指導の手立て
1 本時のめあてを確認する。 学習を進めるために、見通しをもつこと お家の人や地域の方に、「その商品を買ってみたい」と思ってもらうために、「妙蓮寺じまんの一品フェア」で商品の良さをわかりやすく伝えよう	○学習計画表を掲示し、いつでもめあてや活動を確認できるようにする。
2 選んだ資料から得た情報を付箋に書く。 資料から分かること 考えたこと 3 自分が話すことの資料として有効かについてグループで話し合う。 - 成分表を見ると、卵が入っていないから、「アレルギーの心配がいらぬこと」が分かるね。 - おからを使っているからカロリーが少ないね。 - 特別な「洗双糖」を使っていることが分かるね。自然なままの本物の材料をつかっているね。 - この写真ならば一つ一つ手造りで仕上げている製造過程が伝わると思うよ。 - ラベルの絵を見ると横浜で昔から作られていたことが分かるよ。 - 表よりもグラフのほうが差がよく分かるよ。 - 写真で大きくするほうがよいかな。実物を示すほうがよいかな。 4 グループの事例を取り上げ、発表メモを作る。 事例を並び替えて順番を決めること 互いの考えを交流すること 5 本時の振り返りを行う。 それぞれが根拠をもって決めたことを確認すること 6 次時の学習の見通しをもつ。 自分の発表原稿を作ること	評価規準 思・分③ 保護者や地域の人に「妙蓮寺じまんの一品」を購入したいと思ってもらうために、根拠をもって説明するための資料や内容を決定している。 <観察・発表メモ・付箋の記述> ○商品の良さや店主のこだわりを書き表した「妙蓮寺じまんの一品フェア」のポスターを掲示しておき、選んだ資料が、その事柄を説明するものであるように意識させる。 <使用する資料例> 成分量のグラフ アンケート結果のグラフ 包み紙 箱 ラベル シールなど 商店のHP 図書資料 製造過程の写真・動画 販売の様子の写真 店舗の写真 店舗の発行物 インタビュー音源の書き起こし など ○タブレット、ポートフォリオなどのなかに保存している写真や資料は並べて比較できるようにしておく。さらにサムネイル印刷もしておく。 ○話し合う中で、必要ならば写真や資料を変えたり、伝える内容を修正したりするよう支援する。 ○タブレット端末の中の資料は画面上に、ポートフォリオの中の資料の場合は「まなボード」にはさみ、上からラインや目印を書き込みながら話し合えるようにする。 ○困っていることを全体に相談できるよう促し、電子黒板に資料を拡大提示して共有しながら考えられる場面を作るようにする。 ○振り返りの視点を絞り、「保護者や地域の方に自分が説明した商品を購入してみたいと思ってもらうための根拠をもって資料や内容を決定し、妙蓮寺の商店街のよさを広めようとする」に沿った活動が出来たかどうかを考えさせる。 ○学習のゴールをイメージしながら、それぞれの活動が次時の学習へつなげられるようにする。

<授業の視点>

- 子どもは「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くという目的のために、情報活用能力を生かして問題解決をしていたか。